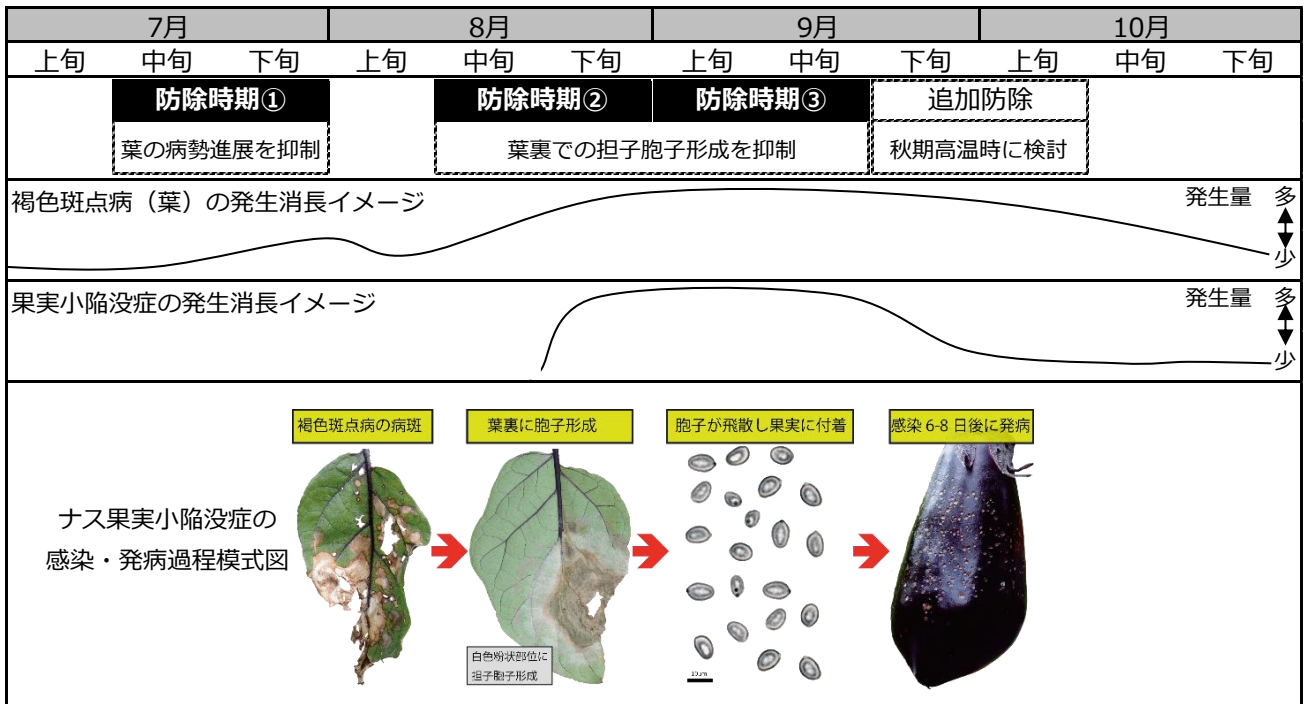


ナス果実小陥没症の発生抑制対策

【1 成果の概要】

- (1) 県南地域の露地ナス栽培で問題となる果実小陥没症は、主に8月下旬から9月下旬にかけて発生します(下図)。果実被害確認後の薬剤散布では効果が低いので、伝染源となる褐色斑点病を対象とした被害確認前からの予防散布に努めてください。
- (2) 本症の発生抑制対策として、下図を参考に7月中下旬、8月中下旬および9月上中旬の計3回、ナス褐色斑点病に登録のある薬剤を散布してください。



【2 留意事項】

(1) ナス褐色斑点病に登録のある薬剤とその効果は以下のとおりです。

種類名(商品名)	系統名	希釈倍数	褐色斑点病(葉)	子実層形成抑制	果実小陥没症
イソピラザム水和剤(ネクスターフロアブル)	SDHI	1,000	◎	◎	◎
ベンチオピラド水和剤(アフエットフロアブル)	SDHI	2,000	◎	◎	◎
ベンチオピラド・TPN水和剤(ベジセイバー)	SDHI+クロロニトリル	1,000	◎	◎	◎
ピラクロストロピン・ボスカリド水和剤(シグナムWDG)	QoI殺菌剤+SDHI	2,000	◎	◎	◎
アゾキシストロピン水和剤(アミスター20フロアブル)	QoI殺菌剤	2,000	◎	◎	◎
ピリベンカルブ水和剤(ファンタジスタ顆粒水和剤)	QoI殺菌剤	2,000	○	◎	○
フルジオキシニル水和剤(セイビアーフロアブル20)	PP殺菌剤	1,500	◎	◎	○
イプロジオン水和剤(ロブラール水和剤)	ジカルボキシイミド	1,000	○	◎	○
イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシ水和剤(ポリベリン水和剤)	ビスグアニジン+ポリオキシ	1,000	○	○	○

◎:効果が優れる ○:有効

- (2) 農薬の使用前には必ずラベルを確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 病原菌の胞子は葉裏に形成されるため、薬液が葉裏によくかかるよう散布してください。
- (4) 適切な整枝・摘葉は、褐色斑点病の罹病葉の除去にもつながります。特に、収穫開始後は、過繁茂をさげ、株の内部に光が入るよう栽培管理に努めてください。

担当研究室 生産環境研究部 病理昆虫研究室

〒024-0003 北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4424 FAX. 0197-71-1085